

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子					科目ナンバ-	Q21990
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	①人が学校教育を修了した後も、生涯にわたって学び続けることの意義や必要性を理解すること。 ②学びたい時にいつでも学ぶことのできる生涯学習社会を構築することの重要性を理解する。 ③現代社会にどのような学びの場があるのかを知ること。 ④生涯学習に関する法律や法規を理解すること。						
授業の概要	キーワード：生涯学習の理念と意義の理解。生涯学習に関する制度や法規の理解。 生涯学習という概念は、学校教育に留まらず、ライフサイクルのどの段階であっても、その時々に関心が必要とすることを学習するということである。このような、学びたい時にいつでも学ぶことのできる生涯学習社会を構築することも、より学習の機会を得やすくするために重要である。授業では、幼児期から青年期、成人期、老年期の学びの特質を学ぶと共に、社会教育の施設や生涯教育に関する法律や法規も学ぶ。						
到達目標	①生涯学習社会の目標と理念を理解する。(知識・理解) ②成人期の学習の特性を説明することができる(態度・志向性) ③生涯学習に関する、主な法律や法規を理解する。(知識・理解)						
授業計画	第1回 オリエンテーション。生涯学習社会の理念・目標について。 第2回 生涯学習社会の歴史的経緯について。 第3回 幼児期の学習の特質について。 第4回 学校教育の現状と生涯学習との関連性について。 第5回 成人期の学習について。〈1〉(アンドラゴジーを中心に) 第6回 成人期の学習について。〈2〉(リンデマンの生涯学習論からの考察) 第7回 老年期の学習について。 第8回 死への準備教育について。 第9回 ライフサイクル論と学習との関連性から。(不登校からの立ち直り・セカンドチャレンジとしての学び) 第10回 社会教育施設および生涯学習施設の紹介および管理と運営について。 第11回 学習者への支援のあり方と評価について。 第12回 生涯学習および社会教育に関する振興施策と推進について。 第13回 生涯学習および社会教育に関する法律および法規について。 第14回 生涯学習の成果の活用について。 第15回 まとめと復習。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：教科書を読んでおくこと。疑問点や理解できないところをピックアップしておく。(学習時間90分) 授業後学習：教科書を再読し、ノートを整理する。配布した資料を読むこと。(学習時間90分)						
授業方法	講義に加えて、毎回、担当を決めて発表と質疑応答を行う。 グループディスカッションを3回を目安に行う。 小レポート作成を行う。 DVD等映像資料を用いる。						
評価基準と評価方法	試験50% 小レポートおよび平常点50%						
履修上の注意	図書館司書、博物館学芸員の資格取得の必修科目。						
教科書	堀薫夫著、『生涯学習と生涯教育』第2版、ミネルヴァ書房。						
参考書	授業の中で、適宜紹介する。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	中山 創太					科目ナンバ-	Q22710
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。						
授業の概要	博物館学の多様な理論ならびに実習を学ぶにあたり、基礎的な知識として身に付けておくべき、博物館の定義、種類、機能、歴史などを学習する。さらに、博物館の置かれた現状を把握することにも努め、これからの博物館のあり方を考える知識と能力を養う。						
到達目標	<p>(1) 博物館とは何をする、そして何をすべき機関であるかを知り、博物館への興味・関心を深める。【態度・志向性】</p> <p>(2) 学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) 現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点を把握できる。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回 博物館学の目的、方法（博物館論理学と技術学）、構成要素、周辺科学</p> <p>第2回 欧米と日本における博物館学史</p> <p>第3回 博物館の語源・定義（ICOM・ユネスコ・博物館法の規定）、他機関との相違</p> <p>第4回 博物館の種別分類、設置者別分類、法的区分</p> <p>第5回 博物館の目的とは</p> <p>第6回 博物館の機能について</p> <p>第7回 博物館の社会的機能（地域社会型、観光型、研究型）</p> <p>第8回 欧米における博物館発達史</p> <p>第9回 日本における博物館発達史 1（昭和20年まで）</p> <p>第10回 日本における博物館発達史 2（昭和20年以降）</p> <p>第11回 博物館の現状と課題（種別、地域分布、入館者数など）</p> <p>第12回 博物館の未来像、博物館と他者との「連携と対話」</p> <p>第13回 拡大する文化財概念と世界文化遺産</p> <p>第14回 学芸員の役割（定義、役割、実態、諸外国との相違）</p> <p>第15回 博物館関連法令について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>【授業前準備学習】各回授業で扱う内容を、参考図書にて当該箇所を予習し、下調べをしておく（学習時間：1時間）。博物館の見学、新聞や雑誌、インターネットなどで博物館に関する情報に触れる（学習時間：1時間）。</p> <p>【授業後学習】授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間：2時間）。</p>						
授業方法	講義：各回リアクションペーパー（講義内容に関するコメント、質問など）を作成し、回答する。受講生に質問する機会を設け、グループ、ペアにてディスカッションをしてもらい、その結果発表をふまえて解説を行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での発表20%、レポート・小テスト20%、期末試験（持ち込み無）60%</p> <p>授業内での発表：博物館に関する興味・関心、理解度を評価する。到達目標（1）（3）に関する到達度の確認</p> <p>レポート・小テスト：博物館への自らの興味・関心の明確性・具体性を評価する。授業の内容の理解度を確認する。到達目標（1）（2）に関する到達度の確認</p> <p>期末試験：授業の内容の理解度を確認 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>レポート・小テストを添削後、返却して各自にフィードバックする。</p>						
履修上の注意	積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。出席回数が開講日数の2/3に満たないものは、原則単位認定を行わない。						
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『博物館概説《改訂版》』、網干善教・高橋隆博編、関西大学出版部、ISBN978-4-87354-324-6 『博物館学Ⅰ：博物館概論*博物館資料論』、大堀哲・水嶋英治編著、学文社、ISBN978-4-7620-2284-5 						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館教育論						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	Q22760
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館における教育活動と学習支援活動に関する多様なあり方を学習し、博物館教育における基本的な理論と実践についての知識を習得する。						
授業の概要	博物館は社会教育の場であり、生涯学習の場でもある。この二面的な教育のあり方の認識と対応は、現在の博物館にとって重要な課題である。博物館は学びの場としてどうあるべきか、そして利用者の自主的な学習活動をどのように支援し、実践してゆけるのかを紹介し、博物館における将来的なよりよい教育のあり方を多面的に考察する。また、観光の場としての博物館の特性にも注意を払い、アミューズメント性と教育・学習の場との両立のあり方にもふれる。						
到達目標	(1)博物館教育の理論と具体例を学ぶことによって、博物館が実践しているさまざまな教育的な活動の趣旨と内容を理解することができる。【知識・理解】 (2)博物館で実施する教育活動やイベントなどに関して、新たな観点から企画・立案する応用力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インタロダクション(教育とは何か?) 第2回 博物館教育の意義と歴史 第3回 社会教育の場としての博物館(人材の育成) 第4回 生涯学習の場としての博物館(自主的な学びへの支援) 第5回 観光の場としての博物館(リクレーションと教育的配慮) 第6回 博物館の利用実態と利用者の博物館体験 第7回 博物館における学びの特性(モノを通しての学び) 第8回 博物館教育活動の手法1(講座、講演会、ギャラリートーク) 第9回 博物館教育活動の手法2(ハンズ・オンと体験学習) 第10回 博物館教育活動の手法3(博学連携、子ども向け講座、インターン研修) 第11回 博物館教育活動の手法4(生涯学習とボランティア活動) 第12回 博物館教育活動の手法5(ワークショップとイベント) 第13回 博物館教育活動の手法6(情報提供、出版事業、資料の特別利用) 第14回 教育担当学芸員の職務と実態 第15回 博物館教育に関する今後の展望と期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回の授業テーマの内容を図書館にある下記の参考書などによって予習しておく(学習時間:30~60分)。 授業後学習:配布したレジメのプリントの重点事項などをラインマーカなどを用いて確認しておく。 なお、日常的な博物館に対する関心は博物館を理解する上で大変重要なので、近隣の博物館で開催される興味や関心がある平常展や特別展を鑑賞したり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース、特別報道番組などの情報に対しても、能動的に視聴するように努力すること。情報内容などに関する疑問点は、授業の終わりなどに質問をして理解することも大切である。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく講義を行う。 時間的な余裕があれば、Q&A方式の双方向授業やグループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%:授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。 レポート15%:出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述により評価する。 平常点15%:授業中の質疑応答などで評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問に対しては授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数3分の2以上になるように気を付けること。 (2)配布したレジメのプリントはA4ポケットファイル(20ポケット)などに綴じて毎回授業に持参すること。 (3)学芸員養成課程において、必須科目は3年次までに「博物館実習」を除く全ての科目の単位取得を終え、さらにそのトータルGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので特に留意すること。 (4)レポートとして、各々の受講生が近隣の博物館等を見学したうえでまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合は交通費や入館料等は受講生の個人負担となる。						
教科書	なし。授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学II—博物館展示論*博物館教育論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2012) ISBN:978-4-7620-2285-2 『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか編 技報堂出版(2014) ISBN:978-4-7655-4129-9 『博物館教育論』大高幸・端山聡子編(財)放送大学教育振興会(2016) ISBN:978-4-595-31614-2 『ハンズ・オン考—博物館教育認識論—』小笠原喜康著 東京堂出版(2015) ISBN:978-4-490-20919-8						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館経営論						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	Q23720
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館の望ましい管理・運営について、博物館の組織や施設のあり方、行財政における諸問題、市民・地域社会との連携などに関する現状と課題に即して概観する。						
授業の概要	博物館経営（ミュージアムマネジメント）について、近年の博物館を取り巻く状況をふまえながら、博物館の組織体制や日常的な運営について紹介し、経営基盤・経営システム（国立・公立・私立）などの課題について考察する。また、博物館における使命や計画の明文化、自己評価・外部評価のあり方、市民サービスの種類などについても取り上げ、博物館が課題解決のためにさまざまな相手との連携活動等に取り組み、社会環境の変化に対応していることを紹介する。						
到達目標	(1)幅広い分野の博物館の実例を通じて、博物館の組織や活動のあり方などが理解でき、博物館経営に関する基礎的な理念と知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2)市民目線から博物館のあるべき未来像（市民にとってどのような博物館が望ましいのか）に関する自身の考えをまとめることができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨンーミュージアムマネジメントの意義ー 第2回 博物館の法体系と経営基盤(行財政、施設と設備、組織と人材) 第3回 博物館の経営形態1(独立行政法人、公立博物館、指定管理者制度) 第4回 博物館の経営形態2(PFI、私立博物館、公益財団法人化) 第5回 博物館の使命と計画、自己評価と外部評価 第6回 博物館倫理と博物館職員の行動規範 第7回 博物館における広報と営業 第8回 博物館における集客と観光への対応(ユニバーサルデザインと多言語化) 第9回 博物館の危機管理(立地、施設と設備、博物館資料、避難誘導) 第10回 歴史・民俗(族)系博物館、美術・文化系博物館の運営の特徴について 第11回 理学系博物館、工学系博物館の運営の特徴について 第12回 育成系博物館、専門館、大学付属博物館の運営の特徴について 第13回 利用者サービスと市民参画(友の会、ボランティア) 第14回 他館や民間などとの連携、地域社会における博物館の意義 第15回 博物館経営の今日的課題と期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業テーマの内容を図書館にある下記の参考書などによって予習しておく(学習時間:30~60分)。 授業後学習：配布したレジメのプリントの重点事項などをラインマーカなどを用いて確認しておく。 なお、日常的な博物館に対する関心は博物館を理解する上で大変重要なので、近隣の博物館で開催される興味や関心がある平常展や特別展を鑑賞したり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース、特別報道番組などの情報に対しても、能動的に視聴するように努力すること。情報内容などに関する疑問点は、授業の終わりなどに質問をして理解することも大切である。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく講義を行う。 時間的な余裕があれば、Q&A方式の双方向授業やグループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。 レポート15%：出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述により評価する。 平常点15%：授業中の質疑応答などで評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問に対しては授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。 (2)配布したレジメのプリントはA4ポケットファイル(20ポケット)などに綴じて毎回授業に持参すること。 (3)学芸員養成課程において、必須科目は3年次までに「博物館実習」を除く全ての科目の単位取得を終え、さらにそのトータルGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので特に留意すること。						
教科書	なし。授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学IIIー博物館情報・メディア論*博物館経営論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2012) ISBN:978-4-7620-2285-2 『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか編 技報堂出版(2014) ISBN:978-4-7655-4129-9 『博物館経営論』佐々木亨・亀井修編(財)放送大学教育振興会(2013) ISBN:978-4-595-31413-1 『観光資源としての博物館』中村浩・青木豊編 芙蓉書房出版(2016) ISBN-13:978-4829506776						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料保存論						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	Q23740
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館資料(作品・個体)を後世に伝えていくことの意義と方法論、博物館による文化財や自然環境などの保全に関する様々な理論と実践事例を概観する。						
授業の概要	博物館資料保存論では、博物館の学芸員をはじめ、実際に博物館資料(作品・個体)や文化財などを扱う立場になった時に、どのような心構えでそれらと向き合うかべきかを学ぶ。博物館資料(作品・個体)や文化財などの保全や修復・修復についての基礎知識を学び、科学的な観点から、博物館資料の保存に関する諸条件や被害への対策、収蔵・展示における問題点などを考察し、あわせて、博物館がはたすべき自然環境の保護と地域における文化財などへの役割に関しても考察する。						
到達目標	(1)博物館におけるさまざまな分野の博物館資料の収蔵環境や展示環境を科学的に捉え、修復や修理に関する実務的な技能を理解し、博物館資料を良好な状態で後世に保存していくための基本的な知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2)博物館資料の保全や、自然環境の保護、地域における文化財保護の役割などに関する理解を深めて、「保存」に対する考え方を日常生活にも応用することができるようになる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 イン트로ダクションー資料保存の意義についてー 第2回 文化財保護の展開と博物館の成立 第3回 博物館資料を保存する諸条件とその影響(温湿度、光、振動、大気など) 第4回 博物館資料の状態調査と現状把握、現状保存と修理・修復 第5回 博物館資料の取扱い、梱包と輸送 第6回 収蔵環境・展示環境における保存条件 第7回 伝統的な保存方法 第8回 生物被害とIPM(総合的有害生物管理) 第9回 博物館資料の修復1(東洋絵画、書跡、油彩画、歴史資料など) 第10回 博物館資料の修復2(考古資料、民俗(族)資料、工芸、彫刻など) 第11回 博物館資料の修復3(自然史資料、機械類、育成動植物など) 第12回 災害の防止と対策(地震、水害、火災、盗難など) 第13回 地域資源と文化財の保存と活用(エコミュージアム、景観、歴史的環境など) 第14回 自然環境の保護ー生物多様性と種の保存ー 第15回 博物館における資料保存の課題と期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回の授業テーマの内容を図書館にある下記の参考書などによって予習しておく(学習時間:30~60分)。 授業後学習:配布したレジメのプリントの重点事項などをラインマーカなどを用いて確認しておく。 なお、日常的な博物館に対する関心は博物館を理解する上で大変重要なので、近隣の博物館で開催される興味や関心がある平常展や特別展を鑑賞したり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース、特別報道番組などの情報に対しても、能動的に視聴するように努力すること。情報内容などに関する疑問点は、授業の終わりなどに質問をして理解することも大切である。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく講義を行う。 時間的な余裕があれば、Q&A方式の双方向授業やグループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%:授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。 レポート15%:出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述により評価する。 平常点15%:授業中の質疑応答などで評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問に対しては授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数数の3分の2以上になるように気を付けること。 (2)配布したレジメのプリントは、A4ポケットファイル(20ポケット)などに綴じて毎回授業に持参すること。 (3)学芸員養成課程において、必須科目は3年次までに「博物館実習」を除く全ての科目の単位取得を終え、さらにそのトータルのGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので特に留意すること。						
教科書	なし。授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学Ⅳー博物館資料保存論*博物館実習論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2013) ISBN:978-4-7620-2287-6 『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか 編著 技報堂出版(2014) ISBN:978-4-7655-4129-9 『博物館資料保存論』本田光子・森田総編(財)放送大学教育振興会(2012) ISBN:978-4-595-31346-2 『文化財の保存環境』東京文化財研究所編 中央公論美術出版(2011) ISBN:978-4-8055-0648-6 『文化財保存学入門』秋田貴廣著 丸善出版(2012) ISBN:978-4-86345-119-3						

科目区分	博物館学芸員課程科目																																																			
科目名	博物館資料論																																																			
担当教員	問屋 真一					科目ナンバ-	Q23730																																													
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	博物館資料の種類と特徴および館活動の最も基礎となる収集、整理保管、調査研究等について概観する。																																																			
授業の概要	博物館資料に関する基礎的な理論と方法について概観する。資料の収集、整理保管、調査研究、展示等の活用について、主として人文系博物館の資料に即して学び、自然科学系博物館の資料に関しては人文系とは異なる特徴について理解を促す。資料の活用、公開、調査研究活動が市民と博物館を結ぶ重要な支えとなるものであることを認識する。																																																			
到達目標	(1) 博物館資料とはどのようなものであり、館種の違いによる資料の特徴を具体的に説明できる。【知識・理解】 (2) 資料の収集・整理保管・調査研究等の理論と具体的な方策について説明できる。【汎用的技能】 (3) 調査研究活動とその公開の意義について、博物館の社会的役割に注目して説明できる。【知識・理解】																																																			
授業計画	<p>前期 博物館資料論</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>博物館資料の意義と資料化</td> <td>…モノとコト、一次資料と二次資料</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>人文系資料の種類(1)</td> <td>…美術資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>人文系資料の種類(2)</td> <td>…歴史・考古資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>人文系資料の種類(3)</td> <td>…民俗資料、その他の資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>収集の理念と方法(1)</td> <td>…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>収集の理念と方法(2)</td> <td>…収集(寄贈・寄託・購入等)の実際</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>自然史・動植物園系資料の収集</td> <td>…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>理工系資料の収集</td> <td>…種類、収集と価値観の特徴と課題</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>資料の分類・整理(1)</td> <td>…受入、登録の方法と実際</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>資料の分類・整理(2)</td> <td>…分類と目録の特徴</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>資料の分類・整理(3)</td> <td>…美術資料の調査と整理</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>資料の分類と整理(4)</td> <td>…歴史資料の調査と整理</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>資料の公開</td> <td>…理念と方法、特別利用、データベース</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>調査研究の意義と内容</td> <td>…個人研究と共同研究、地域調査と資料調査</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>成果の公開と方法</td> <td>…調査研究報告と展示活動、地域社会への還元</td> </tr> </table>							第1回	博物館資料の意義と資料化	…モノとコト、一次資料と二次資料	第2回	人文系資料の種類(1)	…美術資料の種類と特徴	第3回	人文系資料の種類(2)	…歴史・考古資料の種類と特徴	第4回	人文系資料の種類(3)	…民俗資料、その他の資料の種類と特徴	第5回	収集の理念と方法(1)	…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴	第6回	収集の理念と方法(2)	…収集(寄贈・寄託・購入等)の実際	第7回	自然史・動植物園系資料の収集	…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育	第8回	理工系資料の収集	…種類、収集と価値観の特徴と課題	第9回	資料の分類・整理(1)	…受入、登録の方法と実際	第10回	資料の分類・整理(2)	…分類と目録の特徴	第11回	資料の分類・整理(3)	…美術資料の調査と整理	第12回	資料の分類と整理(4)	…歴史資料の調査と整理	第13回	資料の公開	…理念と方法、特別利用、データベース	第14回	調査研究の意義と内容	…個人研究と共同研究、地域調査と資料調査	第15回	成果の公開と方法	…調査研究報告と展示活動、地域社会への還元
第1回	博物館資料の意義と資料化	…モノとコト、一次資料と二次資料																																																		
第2回	人文系資料の種類(1)	…美術資料の種類と特徴																																																		
第3回	人文系資料の種類(2)	…歴史・考古資料の種類と特徴																																																		
第4回	人文系資料の種類(3)	…民俗資料、その他の資料の種類と特徴																																																		
第5回	収集の理念と方法(1)	…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴																																																		
第6回	収集の理念と方法(2)	…収集(寄贈・寄託・購入等)の実際																																																		
第7回	自然史・動植物園系資料の収集	…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育																																																		
第8回	理工系資料の収集	…種類、収集と価値観の特徴と課題																																																		
第9回	資料の分類・整理(1)	…受入、登録の方法と実際																																																		
第10回	資料の分類・整理(2)	…分類と目録の特徴																																																		
第11回	資料の分類・整理(3)	…美術資料の調査と整理																																																		
第12回	資料の分類と整理(4)	…歴史資料の調査と整理																																																		
第13回	資料の公開	…理念と方法、特別利用、データベース																																																		
第14回	調査研究の意義と内容	…個人研究と共同研究、地域調査と資料調査																																																		
第15回	成果の公開と方法	…調査研究報告と展示活動、地域社会への還元																																																		
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：博物館、展覧会を見学して養った資料についての知見、博物館に関する感想を見学レポートに整理して提出すること。また配布プリントにより下調べすること。(学習時間：90分)</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理し、課題に取り組むこと。また授業で得た知識や問題意識を活かして博物館や展覧会を見学し、新たな課題を見つけること。(学習時間：90分)</p>																																																			
授業方法	講義：色々な考え方ができる収集の在り方などについてディスカッションを行う。また資料の整理についてプレゼンテーションを行う。																																																			
評価基準と評価方法	<p>平常点(5割)：授業中の質疑応答、発表、授業態度、課題に対する提出物、見学レポート数や内容などにより評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。</p> <p>小テストまたはレポート(5割)：授業の概要に即して評価する。到達目標(1)(2)(3)についての到達度の確認。なお提出物や見学レポートなどは適宜授業の中で取り上げ、フィードバックする。</p>																																																			
履修上の注意	<p>出席、自主的な展覧会見学を重視する。なお見学については簡潔な見学レポートを提出すること。また授業の一環として近隣の博物館等を見学することがあり、そのときは入館料、交通費等の実費負担が必要となる。</p> <p>教科書にかわる配布プリントは授業ごとに出席者に配布する(欠席者へは次回の授業に限り、要望があれば配布する)。</p>																																																			
教科書	プリントを適宜配布する。																																																			
参考書	参考となる博物館、展覧会等を含め、授業中に適宜紹介する。																																																			

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館情報・メディア論						
担当教員	長谷川 眞					科目ナンバ-	Q22770
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館における情報およびメディア（媒体）に関する基礎と応用						
授業の概要	博物館に収蔵、展示されている博物館資料は、人間の様々な営みの産物である点においてあらゆる人間文化の情報の固まりでもある。この大量で多彩な博物館情報について、概念の整理からはじめ、博物館でおこなわれている事例の検討と併せて、アーカイブ・データベース・編集加工・視覚化などの基礎を学び、ユニバーサルデザインの視点を持つ適切な管理・運営・活用について考える。						
到達目標	(1) 博物館で扱う多様な情報（コンテンツ）を理解し活用できる。【汎用的技能】 (2) 情報の管理・公開に必要なメディアやスキル、法令に関する基本的知識が習得できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 博物館における情報とメディア 第2回 博物館活動の情報化 第3回 メディアの理論と歴史 第4回 博物館資料のドキュメンテーション 第5回 博物館資料のデータベース化 第6回 デジタルアーカイブの現状と課題 第7回 情報機器の活用と情報管理・公開 第8回 展示活動の情報化と公開 第9回 情報倫理・映像倫理 第10回 知的財産のあらまし 第11回 博物館活動と知的財産 第12回 ICT社会の中の博物館 1～コレクションの情報化を中心に～ 第13回 ICT社会の中の博物館 2～展示・公開活動を中心に～ 第14回 ICT社会の中の博物館 3～ユーザビリティとアクセシビリティの視点から～ 第15回 総括・博物館の情報化と新たな価値の創造 及び 試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：日頃から月1回程度、身近にある博物館を訪れ、各施設の持つ博物館資料の公開方法などを展示手法を含めて見学する習慣をつけること。（学習時間：120分） 授業後学習：配付資料などの教材を再読し、授業内容を見直し、疑問点などをピックアップすること。（学習時間60分）						
授業方法	講義 講義は、各回授業計画に基づいた講義形式。ただし、講義テーマによっては、ディスカッションをおこなうこともある。						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%。 試験：授業で扱った講義内容に関する理解度を評価する。到達目標(1)及び(2)に関する到達度の確認。 レポート：出題した課題に対する、内容の整理、コメントにより評価する。その際、ユニバーサルデザインの視点も加味する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 平常点：授業への取り組みを総合的に評価する。到達目標(1)及び(2)に関する到達度の確認。 なお、試験・レポートに関する質問は、授業の前後で受け付ける。						
履修上の注意	パソコンなど情報機器の基本的な操作・利用方法について理解していることが望ましい。						
教科書	プリント配布						
参考書	『博物館学Ⅲ－博物館情報・メディア論*博物館経営論』（新博物館学教科書3）、第1版、大堀哲・水嶋英治、学文社、ISBN:978-4-7620-2286-9 『博物館情報・メディア論』、第1版、稲村哲也・近藤智嗣、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-31863-4						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	Q24780
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	3.0
授業のテーマ	学芸員の業務に関する学内での講義と実務実習、学外での博物館の見学や夏期の館園実習の体験を通じて、博物館の運営のあり方と学芸員の業務の実態を理解する。						
授業の概要	博物館実習は、夏期の学外の館園実習を中心に、その事前事後の講義と、学内で行う博物館資料の取扱い・梱包・調査方法、展覧会の企画・制作などに関する実務実習、博物館や展覧会の実態を観察する見学実習(日曜日)で構成される。夏期の学外の館園実習は、各受講生の希望にそった実習館を可能な限り用意するが、実習を行う各博物館ではそれぞれの学芸員の指導のもとに、学芸業務の一端を体験することとなる。なお、このシラバスには学外の館園実習の内容は含んでいない。						
到達目標	(1)学内外の授業を通じて、博物館の実態と学芸員の業務を目の当たりにすることで、博物館における学芸員の現実としての業務内容を理解することができる。【知識・理解】 (2)博物館の学芸員の業務や技能を学習し体験することで、学芸員になるための実践的な能力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	日曜日の見学実習を含む通年15回3単位の変則的な授業で、夏期の学外の館園実習もあるために、授業の日程や内容にはシラバス作成時では未定部分もある。本授業は3年生までの単位修得条件による受講許可制の授業なので、登録を許可された学生は、4月の第1回目の授業に出席し、授業日程と具体的内容、注意事項に関する説明を必ず受けること。 第1回 オリエンテーションー学内実習と学外実習について 第2回 博物館資料の種類と部分名称 第3回 学芸員の仕事1(絵画・書跡などの取扱いと梱包) 第4回 博物館・美術館の見学実習1(日曜日) 第5回 学芸員の仕事2(彫刻・工芸品などの取扱いと梱包) 第6回 学芸員の仕事3(博物館資料の調査方法) 第7回 博物館・美術館の見学実習2(日曜日) 第8回 夏期学外館園実習の準備と注意事項 *夏期休暇中に学外の館園実習(終日9時～17時、6日程度の予定)がある。館園と日程の確定は6月中旬頃。 第9回 館園実習の報告と自己評価 第10回 博物館・美術館の見学実習3(日曜日) 第11回 学芸員の仕事4(展覧会の企画と運営) 第12回 学芸員の仕事5(チラシ・ポスターの作成) 第13回 学芸員の仕事6(作品展示と教育普及) 第14回 博物館・美術館の見学実習4(日曜日) 第15回 学芸員養成課程の総括、および期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回の授業テーマの内容を図書館にある下記の参考書などによって予習しておく(学習時間:30～60分)。 授業後学習:配布したレジメのプリントの重点事項などをラインマーカなどを用いて確認しておく。空き時間を利用して、博物館資料の取扱いや梱包に関する自主的な学習を希望する者は、別途申し出て実行すること。 なお、日常的な博物館に対する関心は博物館を理解する上で大変重要なので、近隣の博物館で開催される興味や関心がある平常展や特別展を鑑賞したり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース、特別報道番組などの情報に対しても能動的に視聴するように努力すること。情報内容などに関する疑問点は、授業の終わりなどに質問をして理解することも大切である。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づいて、学内での講義と演習、学外での見学実習(日曜日、通年で4回の予定)を行い、加えて夏期の学外の博物館での館園実習(終日、5～6日程度)を博物館の学芸員の指導のもとに実施する。技能の実務も行う実習科目なので、出席を重要視し、時間的な余裕があれば、Q&A方式の双方向授業やグループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	後期の期末試験50%:授業で扱った講義内容・実務内容に関する記述の理解度などにより評価する。 レポート・課題制作20%:見学実習によるコメントや課題制作の完成度などにより評価する。 平常点30%:実技などに取り組む意欲、質疑応答などを総合して評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問などは授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1)本授業は、学芸員養成課程の4年間の学習の総まとめの意味をもつ科目であり、学芸員養成課程の本科目を除く全ての必修科目の単位を3年次までに取得し、原則として一定の学修基準等を満たした学生のみ履修が認められる受講許可制の授業である。 (2)実務実習を伴う授業であるので、出席が授業回数の5分の4以上になるように特に気を付けること。 (3)配布したレジメのプリントは、A4ポケットファイル(20ポケット)などに綴じて毎回授業に持参すること。 (4)学外での見学実習(日曜日)は、前・後期あわせて4回ほど実施する予定である。ポータルや松蔭manabaなどでの連絡に注意するとともに、見学実習における交通費・入館料は自己負担である。 (5)夏期の学外の館園実習は5～6日程度の予定であり、第1回目の授業で詳細を説明するが、費用などについては、履修ガイドに記載の通りである。						
教科書	なし。授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						

参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学Ⅳー博物館資料保存論*博物館実習論』大堀哲・水嶋英治編著 学文社(2013) ISBN:978-4-7620-2287-6 『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか編著 技報堂出版(2014) ISBN:978-4-7655-4129-9 『博物館資料取扱いガイドブックー文化財,美術品等梱包・輸送の手引きー<改訂版>』(公財)日本博物館協会編著 ぎょうせい(2016) ISBN:978-4-324-10159-9
-----	---

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館展示論						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	Q23750
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館における博物館資料(作品・個体)の展示に関する様々な知識・技能の学習を通じて、展覧会の主旨を観覧者に伝達する方法の理論と実践を習得する。						
授業の概要	博物館展示論では、学芸員がどのような意図をもって、どのような方法で、一般の人々に対して博物館資料を選択して展示し、観覧者とのコミュニケーションを図っていくべきなのかを学ぶ。歴史資料・民俗(族)資料・考古資料・美術作品・自然史資料などの幅広い分野にわたる展示の実践例を通じて、展示に関する理論や歴史、教育的実践、具体的な技術や手法を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的な能力を養う。さらに、展示の解説活動として、作品解説や展示解説パネル、人や機器を用いた解説法、展覧会図録などの製作についても学習する。						
到達目標	(1)博物館資料の展示の歴史、展覧会の企画と運営、展示による教育活動などに関する理論や知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2)展示の諸形態、展示方法に関する知識や技術を習得することで、日常生活や仕事における展示という行為に対して応用することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨ ン ー博物館における展示のあれこれー 第2回 博物館における展示の意義 ーコミュニケーションとしての展示ー 第3回 展示論と展示の歴史 第4回 博物館建築の歴史と内部構造の諸機能 第5回 展示の形態・方法と展示条件 第6回 展示技術と照明技術のいろいろ 第7回 展示の解説1 ー題箋と列品解説、解説パネル類、ギャラリートークとイヤホンガイドー 第8回 展示の解説2 ーチラシ、PR誌、出品目録、展示リーフレット、展覧会図録ー 第9回 平常展(常設展)と特別展の企画・制作・運営 第10回 平常展の諸形態1 ー歴史・民俗(族)系博物館の展示ー 第11回 平常展の諸形態2 ー美術・文化系博物館の展示ー 第12回 平常展の諸形態3 ー理学系、工学系、育成系博物館の展示ー 第13回 特別展(自主企画展・共同企画展・巡回展)の諸形態 第14回 展覧会の評価、改善、更新 第15回 博物館展示の今日的課題、および試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回の授業テーマの内容を図書館にある下記の参考書などによって予習しておく(学習時間:30~60分)。 授業後学習: 配布したレジメのプリントの重点事項などをラインマーカなどを用いて確認しておく。 なお、日常的な博物館に対する関心は博物館を理解する上で大変重要なので、近隣の博物館で開催される興味や関心がある平常展や特別展を鑑賞したり、博物館や文化財、科学成果などに関する新聞記事やテレビのニュース、特別報道番組などの情報に対しても、能動的に視聴するように努力すること。情報内容などに関する疑問点は、授業の終わりなどに質問をして理解することも大切である。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく講義を行う。 時間的な余裕があれば、Q&A方式の双方向授業やグループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%: 授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。 レポート15%: 出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述により評価する。 平常点15%: 授業中の質疑応答などで評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問に対しては授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1)出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。 (2)配布したレジメのプリントはA4ポケットファイル(20ポケット)などに綴じて毎回授業に持参すること。 (3)学芸員養成課程において、必須科目は3年次までに「博物館実習」を除く全ての科目の単位取得を終え、さらにそのトータルGPAが原則として2.000以上であることが必要であるので特に留意すること。 (4)レポートとして、各々の受講生が近隣の博物館等を見学したうえでまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合は交通費や入館料等は受講生の個人負担となる。						
教科書	なし。授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版(2012) ISBN:978-4-8295-0551-9 『博物館学IIー博物館展示論*博物館教育論』大堀哲・水嶋英治編 学文社(2012) ISBN:978-4-7620-2285-2 『大学生のための博物館学芸員入門』真野和生ほか編 技報堂出版(2014) ISBN:978-4-7655-4129-9 『博物館展示論』稲村哲也編著(財)放送大学教育振興会(2016) ISBN 978-4-595-31613-5 『観光資源としての博物館』中村浩・青木豊編 芙蓉書房出版(2016) ISBN-13:978-4829506776						